

アートで地域に学ぶ場を

愛媛大・松山大生ら活性化イベント次々

愛媛大、松山大の学生らが地域と連携し、第一線で活躍するアーティストを招いた座談会やワークショップを企画・運営する取り組みが進んでいる。アートやデザインを切り口にした学びの場を設けることで、地域の創造性を高め、まちの活性化につなげるのが狙い。



アートを切り口にした学びの場へむけて話し合いを進める松山大の甲斐朋香准教授(左)と愛媛大の郡司島宏美特命准教授 14日夜、松山市

オンセナートと連携も

山一
松大
ショ
ウク
よ一
キト

一連の取り組みを「SENSE MATSUYAMA A&B BE SCHOOL (センス・マツヤマービー・スクール)」と銘打ち、道後温泉本館改築120周年記念芸術祭「道後オンセナート2014」との連携も図る。

皮切りとして17日午後7時から、松山市緑町1丁目のシアターねこで旅館経営などを手掛けるエイトワン(松山市)の大蔵崇社長のトークショーを行う(入場無料)。

オンセナートの実行委員長で、取り組みを企画した松山大学法学部の甲斐朋香准教授(43)は「オンセナートは観光客誘致や

経済振興に傾きがちだが、もう少し地域社会全体に働き掛けたい」と思いを語る。そのための策として、「地に足をけた民間ベースの小さな動

きが大事」とする。

「アートやデザインには、固定観念を覆し、年齢や職業などの違いを超えて人と人をつなぐパワーがある」とは、愛媛大ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターの郡司島宏美特命准教授(49)。イベントをきっかけに、さまざまの違いを認め合える社会の実現にもつなげたい考えだ。

6月には、世界的に活躍するダンサー・森山開次とコスチュームデザイナーひびのこづえのトークショーを予定。その後は、学生たち自身がアイデアを出し合って人選やテーマ設定をし、年4、5回のイベント開催を目指す。実施場所として、カフェなど民間の交流拠点の発掘、活用にも力を入れるという。

「SENSE」の企画・運営に携わる学生を募集中。問い合わせは、松山大甲斐研究室 電話 089(925)7111(代表)、電子メール アドレス kai@cc.matsuyama-u.ac.jp (白川亜子)